

日本学術会議土木工学・建築学委員会学際連携分科会  
IRDR(災害リスク統合研究)小委員会 (第21期・第1回)

日 時： 平成21年12月25日 (金) 13:00-16:00

会 場： 東京大学地震研究所 1号館 2F 事務会議室B

出席者： 濱田政則, 竹内邦良, 河野 長, 目黒公郎, 石井弓夫, 小松利光, 望月常好, 重川希志依, 春山成子, 林 春男, 寶 馨, 佐々恭二, 林 久美, 朴 恵淑, 佐竹健治, 是澤 優の各委員、赤池伸一 (日本学術会議)

議 題： 1. 小委員会発足の趣旨説明  
2. 自己紹介、委員長の互選、幹事の指名  
3. IRDR SCの報告、関連活動の報告  
4. 日本のIRDRへの貢献について  
5. その他

資 料：

- |  |   |
|--|---|
| 1. IRDR小委員会の設置について                               | 2. IRDR小委員会のメンバー                          |
| 3. 国際学術団体への加入希望調査票 (案)                           | 4. IRDR 関連報告                              |
| 5. IRDR紹介  | 6. IRDR Science Plan                      |
| 7. IRDR-SC Terms of Reference                    | 8. IRDR-SC member list                    |
| 9. IRDR SC-1 minutes                             | 10. IRDR SC-2 memo                        |
| 11. IPO北京に決定                                     | 12. IPO Exe. Dir.公募                       |
| 13. IRDR National Committee                      | 14. 参考資料 EMI website                      |
| 15. 参考資料 JpGU 国際セッション (佐竹委員配布資料)                 | 16. 参考資料 Future ISO 31000                 |
| 17. ISOとセキュリティマネジメント (林春男委員配布資料)                 | 18. 地球環境の変化に伴う水災害への適応 (学術会議提言) (小松委員配布資料) |
| 19. IGU Commission on Hazard and Risk (春山委員配布資料) |   |

議題1 小委員会発足の趣旨説明

○ 濱田土木工学・建築学委員長, 竹内世話役が本委員会発足の経緯等を説明。

議題2 自己紹介、委員長の互選、幹事の指名

- 出席者自己紹介。
- 濱田委員より、竹内委員が本委員会の委員長に相当であるとの推薦があり、出席全員の賛成により決定。
- 竹内委員長が、林春男委員を副委員長へ、春山成子, 小松利光の両委員を委員長補佐 (仮称) へ、佐竹健治、是澤優両委員を幹事へそれぞれ指名。

議題3 IRDR SC の報告、関連活動の報告

○ 竹内委員長から資料3 から 14,16 に沿って IRDR 等について報告。

議題4 日本の IRDR への貢献について

- 濱田委員) ・自然災害の軽減で国際貢献、特にアジアに貢献すべき。  
・国際的枠組と技術者・草の根レベルの協力が車の両輪。
- 目黒委員) ・津波被害の軽減、アジアに多い粗石造の建物のローコストでの耐震補強・改修に取り組んでいる。
- 林(春)委員) ・資料17のISO223シリーズ(社会のセキュリティ)の取り組み状況等について説明。

- 小松委員) ・資料 18 について説明。それに基づき、国交省地方整備局と連携してプロジェクトを実施中であり、九州を参考として普遍的なモデルを作っていきたい。
- 望月委員) ・(小松委員の発言に関し)国交省と協力して、洪水時の避難をテーマに 10 地域で実施中。ノウハウの蓄積が各地域でできたら、情報交換の場を作りたい。
- 河野委員) ・本委員会が、学際的な coordination として機能することを期待。  
 ・ アジア諸国は欧米と縦につながっているが、アジア諸国が横につながる事が大切。そのため  
 の足場を固めることが必要。  
 ・ (世界にデモンストレーションできるものとしては) 既にやっていることを活かすべき。
- 寶委員) ・資料 18 の 4 頁の図について説明。  
 ・ ISDR の Science Sub-committee の活動について紹介。
- 石井委員) ・ WFEO (World Federation of Engineering Organization)にて総合治水や耐震 retrofitting を中心に活動。  
 ・ 日本の方が国際的に先行している。日本は経験を持っている。
- 春山委員) ・資料 19 に沿って説明。IGU (国際地理学連合) の Commission on Hazard and Risk で活動。  
 ・ GIS, リモセン, アジアがキーワード。地理学の視点は過去～現在の環境変動にある。
- 重川委員) ・日本がやってきたことをきちんと見せることが必要。海外だけでなく国内に対しても。  
 ・まずこれまでやってきたことのレビューをしてはどうか？
- 朴委員) ・日本の外から見るとも必要。  
 ・アジア各国とのコミュニケーションを十分に取ることが重要。IPO の北京 office をうまく利用。
- 佐々委員) ・アジアでの land slide の early warning に取り組んでいる。
- 林(春)委員) ・ケーススタディ候補の東京について、首都直下地震防災・減災特別プロジェクトがある。地震と水害の複合災害について考える必要がある。
- 林(久)委員) ・climate change に関するシンポをやったが、大学と各国の気象局ではニーズが違った。  
 ・各国の気象局の capacity building が必要。
- 是澤委員) ・アジア各国とも災害に関する横断的な学会等が不在、そのような横断的な組織が必要。  
 ・日本の研究の蓄積をマッピングして見せたらどうか。
- 佐竹委員) ・各国の政策がどうなっているかの survey が必要。  
 ・各国において、ICS や IRDR との関係を survey することが必要。
- 竹内委員長) ・本日の委員会の最大の目的は、IRDR について知ってもらうこと、各委員がやっていることを突き合わせることであり、その目的は達成された。  
 ・ 今後何をするか、ケーススタディ等について委員長・副委員長・委員長補佐(仮称)・幹事を中心に検討。  
 ・東京について、巨大地震と大規模水害の統合の働きかけも必要。  
 ・資料 13 についてコメントを求められているのでよろしく願います。  
 ・北京 IPO の ExDir 候補者の推薦を、至急お願いしたい。